

# 実感できぬ親世代

バブル崩壊前、「ジャパンは大きくなっていた。」と強調すると、保護者は大きくなっていた。

講師を務めた就活コンサルタント松本保美さん(47)が「実際、就活中の息子や娘にどう接して良いか分からぬ親がほとんどなのです」と強調すると、保護者

# 「どう接したら「戸惑い

松本さんは「親の世代の経験は役に立たない。子どもたちの考え方をきちんと知り、行動を見守って応援してほしい」と訴える。

県内の各大学も保護者向けの就活説明会を開いている。県立大が昨年11月に行なった説明会には約80人が出席した。1、2年生の保護者の方の姿も。はやる親たちに、

そうはいっても、就活期活動は長期にわたる」「通常は30~40社受ける」などと助言した。

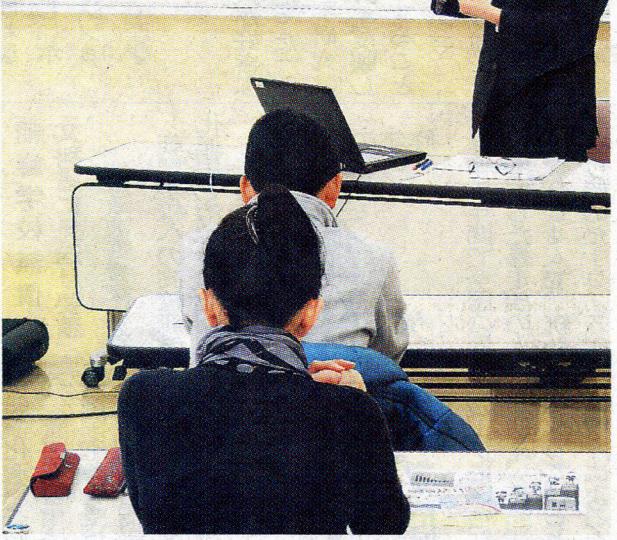
県立大キャリア支援室の田嶋源室長(50)は「採用試験に落ち続けても優しくアピールする。」「資格は必要構図に、県経営者協会の青木清高専務理事(67)は「失敗を乗り越え、再チャレンジする機会が広がる。厳しい就活の体験は必ず将来の糧になる」とエールを送る。

(この連載は経済部・萩原正司が担当しました)

# 厳寒就活

## 内定率最低の現場

▶▶ 下



「就活の正しい知識を」と親向けの講座も登場している=1月22日、静岡市内

つ学生と、企業の採用担当者が意見交換する交流会が静岡市内で開かれた。

「面接では『仕事を一緒に・アズ・ナンバーワン』とされた時代に就職率を迎えた現在の保護者たちは、どうして子どもたちの就活が厳しいか理解できない人が就職したくない」と言い出した。「卒業間近でも就職が決まっている」「娘が就職取れない」と思わず口に出てしまうことも多い。「名の知られない企業に就職しなさい」「まだ内定取れない」と思われる参加者のこんな悩みが交錯した。

松本さんは「親の世代の経験は役に立たない。子どもたちの考え方をきちんと知り、行動を見守って応援してほしい」と訴える。

県立大キャリア支援室の田嶋源室長(50)は「採用試験が募る。「面接ではどこで何が問われるのか」「資格は必要構図に、県経営者協会の青木清高専務理事(67)は「失敗を乗り越え、再チャレンジする機会が広がる。厳しい就活の体験は必ず将来の糧になる」とエールを送る。

(この連載は経済部・萩原正司が担当しました)